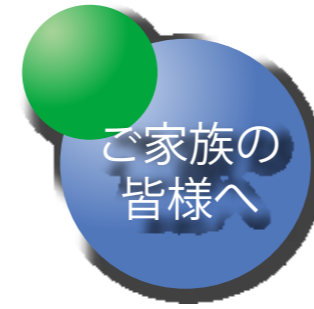


子どもがめざす姿

● 児童がめざす姿 ●



平成23年6月、喜多方市生涯学習推進計画により、人材の育成、青少年の健全育成などを目的とした「喜多方市人づくりの指針」を策定しました。
この指針は、かつて当地方にあって多くの住民が学んだ藤樹学の精神を生かすとともに喜多方市生まれの瓜生岩子刀自、蓮沼門三氏ら先人の教えを尊重し、また、本市の置かれた風土や文化、歴史等を踏まえ策定されたもので、個性豊かな人間の創造を期待し、家庭や地域社会、学校そして行政などの関係機関においてその実現を目指す努力目標とするものです。
指針の名称は「未来を拓く喜多方人」とし、5つの努力目標を受け、児童生徒の目指すべき姿として「なかよく たくましく 生きる」を示しています。
現在、学校・家庭・地域・行政の連携のもと、広く浸透を図っています。

未来を拓く喜多方人

一つ 強い心・愛敬の心など、豊かな心を持つ人になろう

人を思いやる心と敬う心を持つとともに、判断力、意志力、忍耐力、実行力などを養い、心豊かな自己を確立する。

一つ 命の大切さを知り、心身ともに健康な人になろう

命の尊さを自覚し、21世紀を逞しく生きるため、健康な身体と健全な心を培う。

一つ 郷土の自然や文化、歴史、伝統に誇りを持ち、より素晴らしい地域を創造する人になろう

自我形成の背景ともなる郷土の自然や文化、歴史、伝統等に愛着を持ち、個性を生かし広く社会に貢献できる行動力を培う。

一つ 社会の一員として人の道をわきまえ、良心に背くことのない人になろう

社会規範や慣習にのっとった振る舞いができるとともに、他者との共生や他人への配慮など社会人として恥じない人間性を培う。

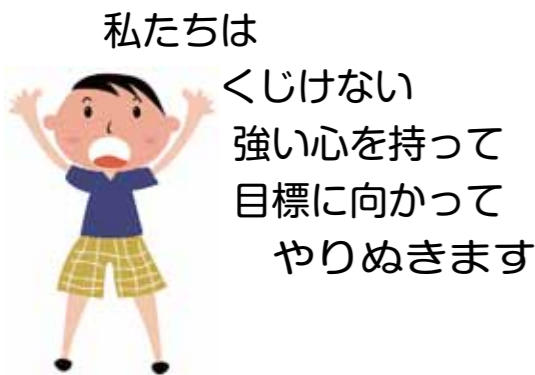
一つ 夢や目標に向けて何事にも挑戦し、世界に羽ばたく人になろう

確かな知恵を身につけるとともに、常に創意と工夫をこらしながら実践し、グローバルな時代を逞しく生き抜くことのできる力を培う。

これらのことを受け、

特に家庭教育における親（保護者）の役割を十分に踏まえ、
家族の絆を大事にしながら、健康で明るい家庭を築くよう努めよう

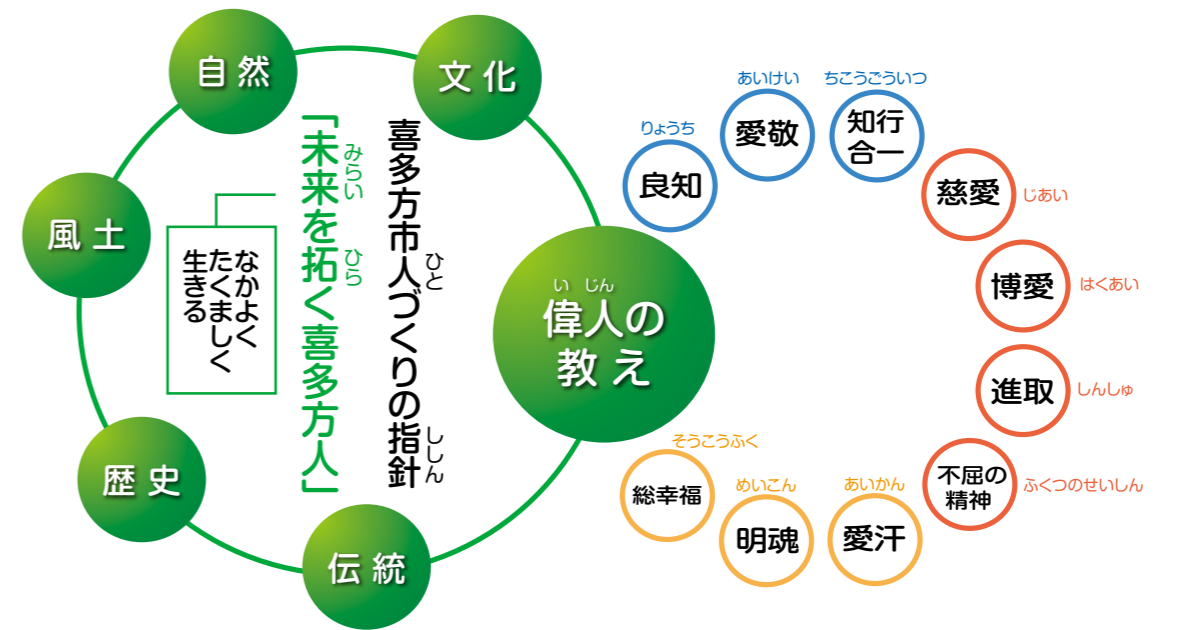
- 人を思いやり敬います
 - お年寄りや弱い立場にある人をいたわる
 - 困っている人や悩みのある人を助け励ます
 - 先人や目上の人、親、先生を敬う
- 「こんにちは」「どうぞ」「ありがとう」を言います
 - 明るい元気な声であいさつをする
 - ゆずり合いの心や感謝の気持ちを忘れない
 - 人の話をよく聞き、自分の考えや思いを素直に伝える
 - コミュニケーションの力を高める
- 勉強に励み体を鍛えます
 - 本気になって勉強に取り組み、学ぶ喜びを体得する
 - 進んで読書をし、本を読む楽しさを知る
 - 規則正しい生活をし、進んで運動する
 - 自他の命を大切にする
- 人として恥ずかしい行いをしません
 - 良心にそむく行いをしない
 - 社会生活のルールを守り、きまりの大切さを知る
 - うそをついたり人をだましたりしない
 - 人をいじめたり、差別したり、卑怯なまねはしない
 - あやまちを素直に認め、反省する
 - 礼儀を身につけ、ことばづかいを正しくする
- 喜多方を誇り社会に役立ちます
 - 喜多方の自然や文化・歴史・伝統の良さを知り、愛する心を持つ
 - 社会に役立つことを進んで行う
 - ・ みんなと力を合わせ、よりよい生活の場をつくる
 - ・ ボランティア活動を進んで行う
 - ・ 地域の行事に進んで参加する



私たちは
 くじけない
 強い心を持って
 目標に向かって
 やりぬきます

喜多方市人づくりの指針
 「なかよく たくましく 生きる」ってなに?

「指針」とは、「とるべき方法や方向をしめすもの。」という意味です。
 喜多方市人づくりの指針は、瓜生岩子刀自、蓮沼門三氏など、郷土の発展につくした先人や藤樹学の教えを尊重し、喜多方市のおかれた風土、文化、歴史等にもとづきながら作られました。(原文は最終ページをごらんください。)
 指針では「豊かな心、たくましく、くじけない強い心を持ち、未来をひらく人」をめざす姿を示しています。
 「なかよく たくましく 生きる」は 指針を受けてつくられた、わたしたちのめざす姿です。毎日の生活に積極的に生かし、充実した生活を送りましょう。



自分ばかりよくなったって
 何にもならねえと思うのす

なかえ どうじゆ
 中江 藤樹

中江藤樹は、近江の国の高島郡小川村(現滋賀県高島市)に今から380年前に生まれました。藤樹の教えは、りっぱな道徳を身につけ、父母はじめ周囲に「孝」をつくすことにあります。一人ひとりが自分の曇りのない心をつかむこと、つかんだらこの心にもとづいて行動すること、そうすることで、親や子どもを幸せにできるという考えです。喜多方では約220年にわたりその教えが脈々と引き継がれています。

愛なき人生は暗黒なり
 汗なき社会は墮落なり

うりゆう いわこ
 瓜生 岩子

瓜生岩子は、文政12年に小田付村(北町)に生まれました。夫や母に先立たれた岩子は大変悲しみましたが、世の中には不幸な人が多いことを思い、それらの人のためにつくそうと決心しました。戊辰戦争では、敵、味方の別なく傷ついた人を看護しました。また、貧しい人や親のない子どもたちのために手をさしのべ、日本のナイチンゲールと讃えられました。

愛なき人生は暗黒なり
 汗なき社会は墮落なり

はすめま もんそう
 蓮沼 門三

蓮沼門三は、明治15年に現在の山都町に生まれました。地元の小学校を卒業後、東京で教師になるための学校に入学し、そこで、友だちとともに人格を向上させるための修養団をつくりました。門三は98年の生涯をかけて「愛の心ですべての人と仲良く、努力の「汗」を流して社会を良くし、すべての人が幸せになる明るい世界をつくらう」と社会教育と社会事業に生涯を捧げました。